

(仮称)市民交流プラザ整備工事設計業務 基本設計書(案)の意見募集の結果について

区 分	意 見 内 容	市 の 考 え 方 (回答)																
P.1～2 事業計画概要(1) 観光機能	<p>「市内周遊性の促進」を維持発展させるために、図書館自体を主要観光資源化したい。</p> <p>「中津川の魅力・観光資源情報提供機能」は必須です。「物見遊山」の視角からだけ中津川を押し出そうとすると、早晚ネタ切れ必至です。例えば、①『島崎藤村』は高水準の素晴らしい観光資源ではありますが、熱狂的な藤村ファン以外は、一度訪問すれば、ほぼ満足されることでしょう。対象が今後益々変化発展する性格ではないからです。②異論は多々ありますが、中津川の歴史的な魅力とは、幕末期の中山道を舞台にした、江戸と京の間で、情報が錯綜する中継地点として近代日本への変革の役割を果たしたことでしょう。苗木道が、西が丘区内を横切っています。ウォーキングコースに組み入れて、幕末期の雰囲気を体験してもらうなどの開発余地はあります。加えて豪商の末裔のもとで、眠っている資料はまだまだ発掘されると思います。残念ながら、開発も発掘も限りがあります。《図書館自体を観光資源にしてしまう》</p> <p>一方、図書館そのものを観光の対象に仕上げれば、エンドレスで、市内周遊性人口・交流人口を増やせます。①中津川の複数の観光資源、郷土資料や歴史文化遺産の見せ方を図書館で工夫する必要があります。図書館がキュレーション技術を高度化することに腐心すれば、「まず図書館で観光情報を得ること」そのものが大切になってきます。</p> <p>「キュレーション」とか「情報の見せ方」は、この数年間で激変しました。例えば、YouTube動画技術が目まぐるしい発展を遂げており、活用しない手はありません。大きな特徴は、図書館が発信する動画は、全世界からアクセス可能だという点にあります。加えて、動画情報はあくまでバーチャルに過ぎない点です。「住みたい田舎」中津川市が東海1位 移住情報誌ランキング、岐阜新聞社 2021/01/14 09:16の記事によれば、「木曾路はすべて山の中」の、文化財の一つになった島崎藤村宅跡＝中津川市馬籠」は訪問しなければ、現地の空気を吸えません。「現場の空気を吸いたい」と思わせられる、いかに魅力的な観光資源として情報発信するかが、図書館の腕の見せ所です。</p> <p>同時に、「この情報発信の現場」が観光(視察かもしれない)の対象になり得るのです。図書館で所蔵された文献資料・史料にも目を通したい、図書館内の図書資料・史料の展示にも手を触れてみたいとのニーズの発展も期待できます。藤村研究論文の仕上げのために、図書館内の研究室を借りて、例えば一週間滞在して、論文を仕上げるといったニーズにも応えたいところです。</p> <p>図書館と歴史資料館との相違点は、圧倒的な物量を誇る、郷土研究の文献資料を図書館が保有して無料公開している点にあります。</p> <p>《中津川市多文化共生推進基本方針(案)》によれば、外国人住民は1,866人》</p> <p>更に加えて、図書館には、来館者が視野を全国、全世界に広げられる「窓」の機能を持たせたいものです。昨年三月末で、市の人口の2.4%に達する外国人住民の存在は、傾向的市人口減少の中であって、実に貴重です。聊か古い統計ですが、国別では、圧倒的にアジア。</p> <table border="1" data-bbox="359 955 1261 1018"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>総数</th> <th>韓国朝鮮</th> <th>中国</th> <th>フィリピン</th> <th>ブラジル</th> <th>アメリカ</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成19年</td> <td>989</td> <td>77</td> <td>398</td> <td>91</td> <td>171</td> <td>13</td> <td>239</td> </tr> </tbody> </table> <p>「http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/archive/wiki_files/3/31/%EF%BC%92%EF%BC%8E2-7. 国籍別外国人登録者数 単位:人口」</p> <p>恐らく、国別の構成比率は現在でも大きな相違はないと見込まれます。従ってアジア地域に力点のある蔵書構成を期待しています。《JTB日本交通公社「観光文化、231号(2016年10月号)」</p> <p>蔵書構成を考える場合、JTB日本交通公社発行の「観光文化、#231(2016年10月号)」の特集記事が参考になります。ただしJTBが目指しているのは、「観光の研究と実務に役立つ図書館」なので、中津川市立図書館の場合は、「研究」に対してはウエイトを軽くせざるをえません。</p> <p>図書館自体を観光資源化する場合の蔵書構成あるいは、開架すべき書籍とはどのようなものかに関しては、具体的な書籍リスト(「一度は読みたい観光研究所&実務書100冊」)も掲載されており、一読をお勧めします。なお、本書はインターネットからダウンロード可能(無料)ですが、一部購入して図書館に所蔵していただきたい。</p> <p>本書の頁34～38には、『人と情報、地域をつなぐ図書館—図書館との連携で広がる観光まちづくりの可能性』と題する小論が掲載されています。頁37には、奈良県立図書館の事例として「情報を再編成し、ニーズを作り出す」とする記述があります。何と3日連続のフォーラムを開催して、1日約350人の参加を得たそうです。「期間中はホテル日航ならとの連携による宿泊プランも販売し、図書館やホテル周辺の飲食店は多くの若者でにぎわった」との記述には、中津川市の新図書館の姿が重なり、私もワクワクしました。更に続けて、図書館自体を観光資源化するうえで、貴重な指摘をしています。頁38「図書館のストック＝地域の宝をどう活かすか」です。ご一読ください。</p>	区分	総数	韓国朝鮮	中国	フィリピン	ブラジル	アメリカ	その他	平成19年	989	77	398	91	171	13	239	<p>中津川市の観光資源情報や郷土資料などを整理し、見せ方を工夫して情報発信力を高めていくことは、図書館として重要な役割のひとつです。</p> <p>ご提案にあるとおり、観光資源情報に国内はもとより世界中からアクセスでき、多くの方に中津川市の魅力を伝えることにより、いつかは中津川市を訪れたいと思っただけのように仕掛けていくことで、観光振興にもつながるものと考えます。</p> <p>また、就労や留学で市内に暮らす外国人の方も多くいらっしゃいますので、多文化共生の視点からも蔵書構成やサービスを検討していきます。</p>
区分	総数	韓国朝鮮	中国	フィリピン	ブラジル	アメリカ	その他											
平成19年	989	77	398	91	171	13	239											

区 分	意 見 内 容	市 の 考 え 方 (回答)
P.1 事業計画概要(1) 複合施設の特長と効果	<p>『複合施設の特徴と効果』として6点指摘があります。この件に関して私見を述べます。</p> <p>《図書館が持つ機能は、無料の貸本屋の機能ではありません》</p> <p>列挙された6点の機能は、本来図書館が持つべき機能であります。従いまして、「複合施設」との記述は、当たらないものと考えています。複合施設と表示すると、いくつかの機能を実現するためには、複数の施設を用意しなければならないという主張になります。これは、図書館について誤った理解を助長するもので、こうした表現が繰り返されると、結果として図書館が新規にサービスを展開・提供することに何らかの懸念が生じ、図書館のスタッフに委縮をもたらします。速やかに是正いただけますようお願い致します。</p> <p>中津川市立図書館の愛称が「市民交流プラザ」であるのは、何らの問題も生じませんが、図書館の名前が消えるのは大問題です。図書館の自殺行為といつてよいものです。</p> <p>《根拠は、世界最大規模にして、かつ最先端だと評されるニューヨーク公共図書館にあります》</p> <p>参考すべき事例は、ニューヨーク公共図書館です。</p> <p>(1)「菅谷明子／著 未来をつくる図書館—ニューヨークからの報告」岩波書店、2003.年刊、中津川市立図書館所蔵</p> <p>※本書には、次のような解説が付されています。「図書館がなかったら今の自分はなかった」。起業や芸術の支援、医療情報などが充実したニューヨーク公共図書館。地域密着の運営、独自のイベントや、ITを活用した情報提供は、どのようにして可能なのか。個人の力を伸ばし、コミュニティを活性化させる活動とその意義を伝え、「市民が主役の情報社会」の方向を探る、示唆に富む報告。多様な機能を有していますが、名称はニューヨーク公共図書館です。これが重要です。「ニューヨーク市民交流プラザ」とはしないままで、機能を広げてきたことが重要です。</p> <p>(2)ニューヨーク公共図書館 えくす・リブリス Ex Libris The New York Public Library. DVD</p> <p>※ニューヨーク公共図書館。そこは世界中の図書館員の憧れの的であり、NY有数の観光スポット。荘厳な19世紀初頭のボザール様式の建築で知られる本館と92の分館からなる世界最大級の〈知の殿堂〉だ。</p> <p>文学、芸術などの分野でも多くの人材を育て、またNY市民の生活に密着した唯一無二の図書館の活動は、我々の固定観念を打ち壊す。</p> <p>映画には、リチャード・ドーキンス博士、エルヴィス・コストロやパティ・スミスなど著名人も多数登場するが、カメラは図書館の内側の、観光客は決して立ち入れない〈STAFF ONLY〉の舞台裏を見せていく。司書やボランティアの姿、幹部たちの会議…ここでしか見られない図書館の姿は必見だ。監督は2016年にアカデミー名誉賞を受賞したドキュメンタリーの巨匠、フレデリック・ワイズマン。まさに“生ける伝説”であるワイズマンがこの図書館が世界で最も有名である理由を示し、公共とは、民主主義とは何かを伝える。</p> <p>上の一文が、DVDのケースにある説明です。①ニューヨーク有数の観光スポットであること、②名称はあくまでとニューヨーク公共図書館を名乗っています。これが大切です。「ニューヨーク交流プラザ」としてこなかったことは、世界最大の知の殿堂であるという自負ではないかと私は理解しています。</p> <p>《中津川市立図書館は、東美濃随一の知の殿堂であってほしい》</p> <p>自治体間競争で勝ち残るには、名前を図書館からプラザに変えてしまったのでは恐らく無理です。図書館が多機能を発揮することが最大の競争ポイントだからです。それは、先に挙げたニューヨーク公共図書館の生き方をみれば明らかです。</p> <p>図書館が知の情報基盤であることは、世界的に承認されています。</p> <p>中津川市立図書館が、プラザと名前を変えなければ存続できない理由がみつかりません。</p>	<p>P1～2の(仮称)市民交流プラザ整備実施計画(概要)は、施設整備事業の具現化を図るため、幅広く市民の意見を反映し、基本理念・基本方針、導入機能、コンセプト・イメージをまとめたものです。</p> <p>この中で当施設は、「子育て支援」、「市民交流」、「学び」、「観光」の4つの機能をもつことから「複合施設」という表現を用いています。</p> <p>また、現在は、施設名を(仮称)市民交流プラザとしていますが、今後、名称の募集などを検討していきます。</p> <p>なお、図書館については、「中津川市立図書館設置条例」において、「中津川市立図書館」と位置づけられるものであり、中津川市立図書館の名称がなくなることはありません。</p>
P.2 事業計画概要(2) 導入機能のコンセプト・イメージ	<p>市民交流機能にある行政資料や地域情報の保管場所及び閲覧場所を明らかにし、特に閲覧時の市民検討・交流場所を明らかにして欲しい。必要なのは資料のある場所、情報の集めやすい所に検討会、交流ができることではないか。区切られた個室ではないと考えます。</p>	<p>行政情報や郷土資料の保管場所及び閲覧場所は、1階のラウンジ及び2階の図書館内に設けていく計画です。</p> <p>具体的な場所や内容については、実施設計のほか、今後の検討の中で決定していきます。</p>
P.2 事業計画概要(2) 導入機能のコンセプト・イメージ	<p>学び機能にあるブラウジングコーナーとの関連で、そのデータを作る機能が図書館には必要であり、その為のシステムを明確にし、必要なスペース設備を明らかにして欲しい。その中から1F観光コーナーにも公開できることにもなると考えます。</p> <p>既に図書館ホームページに日本図書館事業協会の助成金により作成された「中津川市古文書アーカイブ」が設置されているので、この充実をメインにし、電子図書も考慮し今後活用が期待されるデジタル化とともに省スペース化にピッタリの取り組みになるものと考えます。</p> <p>その意味で「ベーターベース」の設備及びスペースも見合ったものに考えて頂きたい。</p> <p>過去の情報は歴史資料等で収集し保管スペースが必要であると考えます。現在の情報も残して行かないと将来空白期間になってしまう恐れが大きい。特に災害・芸術・美術・技術など行政関係の資料も含め大切であると考えます。過去の資料・文献等は博物館化よりも図書館で収納することが保管業務の効率化及び市民の活用によりよく地域の活性化に結びつきやすい。図書館法でもこの考え方は明文化されています。しかもデジタル化で省スペース化と共に体系化(データベース)しやすい利点もあります。例として、元本州製紙の古井戸マンホール事故で多くの命が散った事故。大学を卒業し入社間もなくの若人も犠牲に。再発防止を含めてこの記録も公共図書館には記録として残すことが必要であると考えます。また市内温泉の一覧などの観光資源の詳細も保管し、市民や観光で訪れた人々の目に触れられるようにしなくてはなりません。ボランティアではこの2件は企画展示で取り上げ収集しましたが、図書館としての取り組みの進展が見られません。現在ボランティアでの収集の域で止まっているように思えます。また、集中保管することで、市役所人事異動による伝承障害も回避でき、データベースのより高度・充実化が期待できるものと考えます。</p>	<p>電子化については、いつでも、どこでも誰でも閲覧できるのがメリットであり、対応したシステムの導入を検討していきます。</p> <p>また、ご提案の内容を参考に、既存の「中津川市古文書アーカイブ」の充実や貴重な資料のデータ化・保存などを進め、市民や観光で訪れた方などに見ていただける環境を整えていきたいと考えています。</p>
P.5 敷地条件概要	<p>従来から心配されている駐車場の課題は、直近の中山道向かいの場所と南西の駐車場19台そして、南側のにぎわい広場駐車場への通路等の部分的土地取得を含めた公園の利活用など目標値200台を開館と同時にぜひ実現されたい。</p>	<p>安全で利便よく施設をご利用いただくために、ふるさとにぎわい広場の利用も含め、周辺で200台程度の駐車場の確保を検討しています。</p>
P.7 設計コンセプト 空間構成の方針 機能配置の方針	<p>このコンセプトがスムーズに運用され市民はじめ外来者に満足できれば素晴らしいことです。その実現を図る為には、設計段階から設計通りに運用できる体制を確立していかななくては、絵に描いた餅でスタートすることになるのではないかと非常に危惧します。</p> <p>従って、早い段階から、管理者(センター長)を決めて取り組む必要があると考えます。そして公募で的確な人材を確保していただきたい。</p>	<p>施設の管理運営体制については、管理者の選定方法も含め、出来るだけ早期に方針を決定します。</p>

区 分	意 見 内 容	市 の 考 え 方 (回答)
P.7 設計コンセプト 動線計画の方針	コンセプトの動線計画の方針にある「時間外管理区域とそれ以外の区画」については、設計、整備における留意点(10)管理運営の基本的な考え方にある「管理運営システムを検討します」ではなく、「管理運営の方針を前提にして」カウンター配置や動線計画が始めて出来得るのではないかと。現状それが逆になっていると心配する。	時間外管理区域とそれ以外の区画については、それぞれの機能の開館時間と利用時間の方向性を前提にして検討したものです。 また、施設全体の管理運営体制については、引き続き様々な方法を比較などしながら、最適な方法を検討していきます。
P.8 パース(1)	外観全体のイメージとして、特に壁面の縦のラインが強調され、まるで安直なプレハブ倉庫のような印象を受けます。中津川市の地域性や独自性を十分に反映したものとは思われません。重厚でもなければ、軽やかでもなく、可もなく不可もなく、とても中途半端な印象です。 多治見市にある藤森照信さんデザインの「モザイクタイルミュージアム」のように、広く世界に向けて発信できる強い訴求力を求めます。東濃ヒノキなど山に囲まれ、製材業も盛んな土地柄をより積極的に生かしたデザインへと修正されることを望みます。	中山道中津川宿の町屋建築の格子を特徴として、風情や佇まい、地域性を表現したデザインとしています。周辺の景観との調和などに配慮し、地元の方や訪れていただいた方に違和感を感じさせない形状としました。 また、内装等にも地元の木材をできる限り利用するなど、柔らかく温かみがある施設としていきます。
P.8～9 パース(1)(2)	パースと平面が合いません、2、3階はパースのように、吹き抜け、オープンデッキがいいですね。	パースと平面図は整合させています。 北側の2、3階は吹き抜けとし、南側には、見晴らしのよいオープンなテラスを設けます。
P.13 計画概要 設計、整備における留意点 (1)施設全体 (5)環境・長寿命への配慮	石油由来の材料・什器などは全廃し、木材など環境負荷の小さいものに置換する。さらに、地産のものを優先的に使用する。	P.13 設計、整備における留意点で記載のとおり、意匠や用途に合わせて、木材など地元産材をできる限り利用した施設とします。 また、出来る限り、環境・長寿命に配慮した施設を目指します。
P.13 計画概要 設計、整備における留意点 (9)駐車場計画	建物南側の駐車場用地の確保が利用のカギです。ご苦労様ですが、努力をお願いします。	駐車場については、ふるさとにぎわい広場の活用も含め、全体で200台程度の確保を検討しています。
P.14 配置計画	1階駐車について、雨のとき、幼児を車から乗降者するのに、屋根のある駐車スペースがあるとぬれずに館内に入出入りできるので、雨でも心配しないで来れる。	屋根付きの駐車場の整備は考えておりませんが、体の不自由な方や小さなお子様連れの方などが、アプローチしやすい適切な配置などを実施設計の中で検討していきます。
P.14 配置計画	駐車場は救急車両や障害者用の車両などの必要不可欠なスペースを除いて、全廃する。代わりに、カフェやベンチ、花壇などを設け、道と建物との縁側感覚を出す。	施設に近い駐車場については、体の不自由な方や小さなお子様連れの方などの利用しやすさなども配慮のうえ、必要な台数を確保していく考えです。 ご提案のようなゆりの空間づくりも参考にさせていただき実施設計を進めていきます。
P.15 動線計画	動線計画において、「駐車場入り口は原則南側とし、道路幅員の狭い北側からのアクセスを避けます。」及び「北側の車両出入りの利用はイベント時のみとする。」とあるが、南側道路へアクセスする南側駐車場の通路有効幅員は5m程度しかなく、歩行者の通行を加味すると、車両の相互通行による南側道路へのアクセスは大変危険な状態を招くおそれが高く、無理がある。 そこで、北側ゲートは旧中山道を東進してくる車両や歩行者との安全対策を相応に講じた上で車両出口専用とし、南側道路側のゲートは入口専用とする。これにより、南側駐車場内通路は北向き一方通行となり、歩行者・車両双方の通行安全性向上を図ることができる。 また、南側道路アクセスのための用地買収費及び周辺生活環境への負荷削減も見込まれる。 市の旧中山道のにぎわい・観光を重視する姿勢は理解できるが、大勢の来客が見込まれるイベント時にこそ施設に付帯する駐車場利用(身障車以外)は規制すべきであり、ふるさとにぎわい広場の駐車場を活用するなどして、施設周辺の交通安全対策に万全を期していただきたい。	動線計画につきまして安全性確保の観点から、場内や入口と出口の配置等を検討していきます。
P.16～18 平面計画(1)(2)(3)	シンプルがベストです。計画の中央に配置する階段、EV室は各階の機能をかえって障害します。中心となる利用度の高い2階のエントランスの左右にトイレ、階段、EVをまとめて配置し、各階統一した位置にまとめるべきです。管理上も、コストでも考慮すべきです。 事務室区域内の階段はなくし、EV利用のみ、車路、車庫は建屋外のキュービクルあたりで対応、積み込みは車寄せ対応で可能です。それによりトイレ、階段、EVが配置可能です。	当施設においては、中央に階段、EVを配置し、どの部屋にも効率的にアクセスできる動線となるよう、計画を検討しています。 また、地域の図書館・図書室、小中学校等への配本業務は、図書館の重要な事業として位置づけており、作業頻度が高いため、これらの業務が効率的、安全に行えるように職員と図書の動線、作業の流れ等から今回の配置計画としています。
P.16～18 平面計画(1)(2)(3)	1階、2階、3階の事務室、カウンタースペースについては、限られた中での配置で難しさがあるが、管理部門の在り様と職員配置の議論が尽くされたのか。そして、職員動線の関係は十分に職員間で検討されてきたのか。重要どころだけに時間と知恵を絞っていただきたい。	事務室、カウンタースペース等の配置、職員の動線については、関係部門で十分検討を重ね、計画へ反映しています。
P.16 平面計画(1)	4つの機能の融合配置では、1階の活動室1と多目的室1・2・3の配置は活動室1を東側壁に配置して、可動壁で広がる多目的室の利用効果を上げるべきではないか。ステージ及び多目的ラウンジとの連携活用が拡がると思う。	活動室と多目的室の配置については、様々な利用シーンを想定しながら、実施設計の中で検討を進めていきます。

区 分	意 見 内 容	市 の 考 え 方 (回答)
P.17 平面計画(2)	2階学習室の席数と活動室5・6の席数ほどの位なのか。読書離れ傾向の青少年により使いやすくするために自由な空間としてラウンジとの使い方に工夫していくことなどが、考えられているのか。	学習室は、現在26席程度を予定していますが、利用者数の想定についてさらに精査を行い、実施設計の中で適切な面積の確保と席の設置を行っていきます。 活動室5、6は、グループ学習や図書館見学・講座の教室としての利用のほか、夏休みなど長期休暇やテスト期間には学習室としての利用も想定しており、現在35席程度を予定しています。こちらについても、実施設計の中で適切な面積の確保と席数の設置を検討していきます。 また、図書館の内部にも読書や調べ物、学習などに対応した閲覧席を多数配置するほか、1階と2階のラウンジには、仲間との会話や学習、読書など気軽な使い方を想定した空間として必要な環境を設けます。 多くの若者に図書館を利用いただけるように、利用スタイルやニーズに合わせた設計とサービスの提供に工夫をしていきます。
P.17 平面計画(2)	図書館は借りるだけでなく、調査・研究できるところにするべき。中津川市は三菱もあり工業団地もある工業の町。調査・研究し、若い人が自分で、あるいは自分たちで新しい製品開発できるように、パソコンなどを配置したり、モノ作りができる場所を提供ができると思います。	図書館は学びの拠点として、市民の教養、調査、研究、レクリエーション等に資するための機能の充実も必要とされています。 中津川市の特色である自然や文化、歴史、産業など地域資料の充実を図るとともに、それらの閲覧スペースや学習室のほか、グループ学習の場としても利用できる活動室やラウンジ等も用意しています。 新たな発見や様々な交流につながる場としても期待される施設をつくっていきたく考えています。
P.17 平面計画(2)	図書館に関わる多くのボランティアが活動しやすい空間とシステムも考えていただきたい。	活動室を設けており、人数や活動内容に対応して柔軟な使い方が可能です。
P.18 平面計画(3)	3階の児童書・子育て支援スペースと集密書架スペースであるが、図書機能で23万冊の蔵書機能を考えた時に集密書架8万冊は不足ではないか。児童書書架を少し削って西側壁面部分を全部集密書架にできないか。図書資料は増えることがあっても減らしていく資料の数と貸出中の数で相殺しながらの運営になるので少しでも蔵書を多く出来るようにすることが、利用年数を長くすることになるからである。	集密書架の規模が大きければ、余裕ある管理が可能となりますが、限られた施設面積の中では、一定量を上限とした蔵書管理を行う必要があります。 当施設では、できる限り多くの蔵書を開架書架で配架していく方針で、集密書架の規模を決定しました。 地域図書館等との蔵書連携、また将来の電子化による省スペース化等により適切な蔵書管理を図っていきます。
P.18 平面計画(3)	設計の原則を変えてはいけません、荷重のあるものは低層階に配置するべきです、開架書庫は半地下の1階東南隅か南西隅とすべきでしょう。	出入口に近く利便性の高い1階は出来る限り市民が利用するスペースやサービスのためのスペースとすることを念頭に構造的な検討も充分に行ったうえで配置しています。
P.20 断面計画	1階正面の天井高は、計画より少し高くして欲しい。断面図のラウンジ上の天井を少しでも高くすることでより広く高い空間をラウンジに感じるのではないかな。	1階の天井高は、2階の出入口の高さに関係し、スロープの傾斜や長さなど利用のしやすさと調整して計画しました。 天井には、ルーバー等を用いた視覚的な圧迫感の軽減、多目的ラウンジなどで部分的に天井を高くするなど、できる限り開放感を感じられるような工夫をしていきます。
P.23 電気設備計画概要(2)	基本設計書案には、太陽光発電として5キロワット程度を設置するとあるが、これは一般家庭用仕様に過ぎない。建物全体の使用エネルギーを自給するシステムの導入を求める。	太陽光発電設備については、日中のエネルギー消費量やライフサイクルコストとのバランス等から実施設計の中で適当な出力を検討します。 ただし、全てを自給することは、夜間の電気を賄う蓄電設備も含めて大きなコストがかかることから難しいものと考えています。
P.30 機械設備計画	現在猛威を振るう新型コロナ感染に対応する施設設備がどのように成されているのか。建物の各フロア換気や各活動室などの換気、複雑な壁面構成となる管理部門エリアなどどのように有効な換気がシステム化されているのか具体的に示されたい。	厚生労働省が示す「換気の悪い密閉空間」とならないように、一人あたり換気量を30m ³ /hに設定し、館内空気が入れ替わる換気計画としています。 各活動室等は個別換気経路を形成し、排出空気は他室へ伝播することなく、直接外気に放出されるように配慮します。 また、機械式換気の整備だけでなく、外部に接する窓はできるだけ開閉可能なものとする事で、自然換気が行えるように配慮していきます。
その他 設備	現在の中央公民館での学習室の予約システム、状況からみて非常に不安です。うまくいく前例を早く構築すべきであると考えます。	学習室の運用方法については、使いやすさや公平なルールの設定など、他の先進事例も参考にして検討をしていきます。

区 分	意 見 内 容	市 の 考 え 方 (回答)
その他 運営体制	<p>提案として、この施設の運営を市役所のどの部局が担うのか。或いは新たに指定管理などの主体に任せるのかを先に決めるべきではないか。原則としては、市が責任をもって直営で取り組むことがベストである。ならばおのずと中心となる文化スポーツ部の図書館が管理運営を担うべきであるし、二極・三極の管理体制は絶対によくない。図書館に管理部門職を置いて運営すべきである。子育て部門は専門担当で、交流・観光部門は図書館と管理部門で担うしかない。それによって、図書館活動の新たな視点による活動が創造できると考える。</p> <p>図書館が発想する市民活動展示、図書館活動から見た子育て・親育ての事業展開。内外の利用者に向けて市内の観光や歴史・文化遺産の照会など魅力発見の場に繋げられる情報提供。ビジネスに活用されるために社会に役立つ情報の提供や行政各部門と連携した各種展示、講座など市民の生活に直結した学習機会の提供など、次々と新たな要素の事業が展開できるはずだ。それを展開していくのがこれからの図書館活動であるし市役所の情報発信拠点施設となるべきである。</p> <p>そして、そのことが中津川市内外へ情報発信となり、アピールが出来る。市民に理解され、歓迎され、利用される親しみのあるまさに市民交流施設となるだろう。</p> <p>設計コンセプトから若干外れるかもしれないが、施設コンセプトだけでなく、この建物を活かし切るという市役所当局の絶対の決意が表現されて具体的な形として、示されることが、この市民交流プラザ建設の成功のカギとなると考えるので強調させていただいた。</p> <p>なおまた、中心市街地の拠点となる施設であり、今後市街地に検討される青邨記念美術館の建設や本町の中央公民館の設備充実と中山道歴史資料館の整備充実など中津川市の学習・歴史文化の魅力充実に更に役立って欲しいとの願いを含めて申し添え、意見・提案とする。</p>	<p>図書館の運営については、市が直営で行う方向で検討を進めています。</p> <p>公共図書館の社会教育機関や情報発信拠点としての重要性に鑑みた機能が十分発揮できるよう、管理運営体制を整えるとともに、各分野や様々な取組みにわたる企画力と発信力を高め、市民に親しみをもって利用され、期待に応えられる施設の実現を目指していきます。</p>
その他 運営体制	<p>新しい図書館から発信して新しい中津川市をつくってほしい。そのためには、以前元小林館長になって図書館が生まれ変わったように、ぜひ元小林館長のように経験豊かでやる気のある人に館長になってほしい。</p>	<p>管理者の選定方法も含めた管理運営体制の検討を行っています。</p>
その他 運営体制	<p>隣接の恵那市の図書館は蔵書25万冊で、職員20名です。多機能施設となればさらに多くのスタッフが必要です。関連する分野の準備を計画的に進められるかが課題となります。安直な丸投げ、委託とならないよう、責任のある市直営の体制を望みます。</p>	<p>図書館の運営については、市が直営で行う方向で検討を進めています。</p> <p>市の図書館として、自律的な判断と責任、地域のニーズに基づいた運営が必要であると考えています。</p> <p>また、図書館のほか、子育て支援、市民交流、観光といった機能と連携し、相乗的な効果を発揮できる管理運営体制について、しっかりと検討を行っていきます。</p>
その他 運営体制	<p>「観光、子育て支援、市民交流」の機能は、既存の中央公民館、歴史資料館等との調整を十分に行い、中核となる「学び」の機能の支障とならないよう留意する必要があります</p>	<p>既存の中央公民館や中山道歴史資料館等の役割との調整を図りながら、相互に高められる機能とサービスを構築していきます。</p>
その他 意見聴取	<p>(仮称)市民交流プラザの真のユーザーは市民であるはずですが。このユーザーの意見を吸収しているのか疑問に感じています。</p>	<p>平成31年度から、若者世代、子育て世代、利用者・団体との意見交換等を開催し、幅広い世代から意見を伺うとともに、「リニアを活用したまちづくり推進市民会議」、「図書館機能検討委員会」、「子ども・子育て会議」等、専門的観点からも多くの方の意見やパブリックコメントで広く市民の意見も伺いました。</p> <p>これまでの市民の意見、ニーズを基にして、計画と基本設計(案)を組み立ててきました。</p> <p>今後も市民の皆様の意見を伺いながら整備を進めていきます。</p>
その他 図書館の位置づけ	<p>同案のどこにも、「図書館」という言葉が見当たりません。しかしながら、同案の「学ぶ」は図書館の機能そのものであり、ことさらに、図書館の言葉を忌避する理由はないと思われます。現在、中央公民館内にある中央図書館が廃止され、同案のなかに吸収される以上、「中央図書館」の看板とともに、それにふさわしい位置づけを求めます。</p>	<p>学びの機能として、中津川市立図書館を移転するものです。</p> <p>基本設計書(案)の中では、必要な箇所「学び(図書館)」と記載しており、P13(12)既存公共施設の機能移転・統合についての説明としては、「老朽化し手狭となった現中央図書館を移転し、集客力と特色のある学びの拠点として整備する」ことを記載しています。</p> <p>この度整備する図書館については、「中津川市立図書館設置条例」において、名称を「中津川市立図書館」とし、区分では「中央館」と位置づけられるものです。</p>